

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 57-073513

(43)Date of publication of application : 08.05.1982

(51)Int.Cl.

H03H 9/25

(21)Application number : 55-149483

(71)Applicant : SHIMIZU YASUTAKA

(22)Date of filing : 27.10.1980

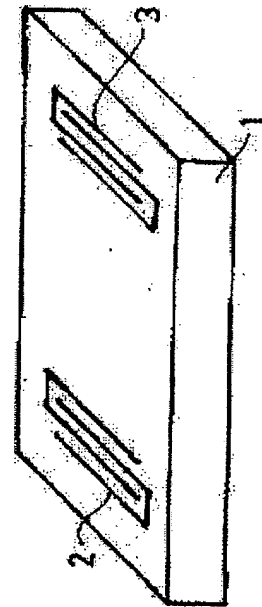
(72)Inventor : SHIMIZU YASUTAKA
YAMAMOTO TAIJI

(54) SURFACE ACOUSTIC WAVE DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve the temperature characteristics, by using a quartz base as a piezoelectric base and suitably determining the cut-azimuth and propagation direction of surface acoustic waves.

CONSTITUTION: Two reed-screen-shaped electrodes 2, 3 are located on a piezoelectric base 1, an electric signal is applied to one reed screen electrode 2 to convert it into surface acoustic waves and an electric signal is picked up from another reed-screen electrode 3. As the piezoelectric base 1, a rotating Y-cut quartz is used, the rotating angle is regulated to $(28^\circ \pm 5^\circ)$ from the Y axis, and the direction of propagation of the surface acoustic waves is set to $\pm(43^\circ \pm 3^\circ)$ from the X axis.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

2

⑬ 日本国特許庁 (JP)

① 特許出願公開

⑭ 公開特許公報 (A)

昭57-73513

① Int. Cl.³
H 03 H 9/25

識別記号

庁内整理番号
7232-5 J

④ 公開 昭和57年(1982)5月8日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑤ 弾性表面波装置

② 特 願 昭55-149483

② 出 願 昭55(1980)10月27日

特許法第30条第1項適用

(1) 昭和55年5月9日発行春季研究講演論文
集に発表(2) 昭和55年10月3日発行秋季研究講演論文
集に発表

⑦ 発 明 者 清水康敬

東京都世田谷区梅丘3丁目1番1
0号

⑦ 発 明 者 山本泰司

津市新町1丁目2番7号

⑧ 出 願 人 清水康敬

東京都世田谷区梅丘3丁目1番1
0号

⑨ 代 理 人 弁理士 村井隆

明 細 書

1. 発明の名称

弾性表面波装置

2. 特許請求の範囲

(1) 回転 Y カット水晶であって、その回転角を Y
軸から $28^{\circ} \pm 5^{\circ}$ とし、弾性表面波の伝播方向を
X 軸から $\pm (43^{\circ} \pm 3^{\circ})$ に設定した水晶を圧電
体として用いることを特徴とする弾性表面波装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は圧電体として水晶を用いた弾性表面波
装置に関する。

従来より弾性表面波装置は、第1図に示すよう
に、圧電体基板 1 の上に 2 つのすだれ状電極 2、
3 を配置し、一方のすだれ状電極 2 に電気信号を
加えて弾性表面波に変換し、他方のすだれ状電極
3 より電気信号を取出す構造が一般的となってい
る。この場合、従来の弾性表面波装置の圧電体と
して LiNbO_3 、 LiTaO_3 、水晶等が用いられてい
た。

しかし、これらの圧電体には温度特性の点で次

のような欠点があった。すなわち、 LiNbO_3 、
 LiTaO_3 は電気機械結合係数が大きい、遅延時
間の温度係数が夫々 $80 \text{ ppm}/^{\circ}\text{C}$ 、 $20 \text{ ppm}/^{\circ}\text{C}$
と大きい。また、水晶は電気機械結合係数が小さ
いといえ、温度係数が小さく、特に ST カット
水晶は第2図にその温度特性を示すように零温度
係数をもつものとして知られているが、同図から
わかるように遅延時間変化率が 10 ppm 以下とな
る温度幅は約 38°C で広くない。したがって、最
新の高信頼性デバイスの要求を満足させ得ること
ができない欠点があった。

そこで、本発明はこれらの欠点を除去し、温度
特性の極めて良好な弾性表面波装置を提供しよう
とするものである。すなわち、本発明は弾性表面
波装置を構成する圧電体基板として水晶基板を用
い、遅延時間変化率が 10 ppm 以下の温度幅が
 58°C となる水晶基板のカット方位並びに弾性
表面波の伝播方向を与えるものである。

以下、図面を用いて本発明を具体的に説明する。

まず、水晶のように異方性をもつ基板に対する

弾性を顕著する場合、オイラー角が θ と ϕ を用いられる。このオイラー角には右手法と左手系の表現があるが、ここでは第3図に示すように右手系のオイラー角 (θ, ϕ, ψ) を用いる。この図において、 X, Y, Z は水晶の結晶軸である。また、角度 θ は第1図の角度で、 X 軸から回した角度であり、第2図の角度 ϕ は Z 軸よりカセット面を回した角度である。さらに、第3図の角度 ψ は切り出した水晶基板表面での弾性面回線の低減方向を示す角度である。したがって、これらの3つの角度 θ, ϕ, ψ を用いることによって、任意のカセット方位の水晶基板で任意の方向に進む弾性面回線の特徴を調製することが出来る。

ところで、水晶の材料定数は既に定められているので、オイラー角 θ, ϕ, ψ が分かれば、弾性面回線に対する回線角度、電気機械結合係数、温度特性などを理論的に計算することが出来る。ここで $\theta=0^\circ$ の場合について、角度が 20° に角度 ϕ と ψ の関係を求めると、第4図に示す曲線

42.7°に切断して第1図に示すような弾性面回線角度を調製して測定した実験値とを示すものである。本発明によるこの図と、従来のBTEカセットの特性を示す第2図を比較して容易におかえるように、本発明による水晶基板の温度特性は従来の特性に比べて非常に優れている。例えば遅延時間減衰率の温度特性が10 ppm以下となる温度範囲と比較すると、従来のものが3.8°に対して、本発明のものは3.8°である。また、このカセットの水晶基板の電気機械結合係数は0.0018（実験値）、パワーファクターは2°（実験値）である。

第5図は調製した弾性面回線角度の挿入損失の温度特性の一例である。この図からわかるように、このカセットによる水晶基板を用いた回路はスプリアス低減も小さく良好な特性が得られている。

さらに、各軸の傾斜によれば、角度 θ が110°±5°、角度 ϕ が±(4.3°±3°)の範囲であれば、従来のBTEカセットの特性よりも優れていることが確認された。

なお、ここでは第3図に示すオイラー角 (θ, ϕ, ψ) によつて水晶のカセット方位及び振動方向を指定したが、これを別の表現で示すと、本発明は次のように言い換えることが出来る。すなわち、3°±5°の回線角 ψ カセット水晶基板において、 X 軸から±(4.3°±3°)の方向に弾性面回線を振動させることを特徴とする弾性面回線角度である。

以上の説明から明らかのように、本発明によれば、従来のものよりも優れた温度特性を有する弾性面回線角度が実現できるので、実用して効果が大い。

特開昭57-73513(22)の如くなる。この図で点Bでは従来のように用いられているBTEカセット水晶を示す点である。この図からわかるように20°で遅延係数を示すカセットは多く存在する。しかし、例え20°において遅延係数を示しても、広い温度範囲にわたって温度特性が保たれているかは、この図からは不明である。この点については別に理論的に検討した。更に、基板の測定に際しては、電気機械結合係数の大きさ、及びパワーファクター（位相速度とストレーン速度の違いを示す）も重要な要因である。そこで、これら全てを総合的に検討した結果、第4図における点A付近の水晶基板によつてBTEカセット水晶に比べて極めて優れた温度特性をもつ電気機械結合係数も同程度となることが明らかとなった。また、図面において、点A'は水晶の対称面より点Aと全く同一の特性を示す点である。次に、これらの特性を同様に示すと、第5図は第4図の点A付近の水晶基板について、図内回線角 ψ を定めた場合の温度特性の理論値と、実際に水晶基板を $\theta=11.5^\circ, \psi=42.3^\circ$ 及び

ϕ, ψ によつて水晶のカセット方位及び振動方向を指定したが、これを別の表現で示すと、本発明は次のように言い換えることが出来る。すなわち、3°±5°の回線角 ψ カセット水晶基板において、 X 軸から±(4.3°±3°)の方向に弾性面回線を振動させることを特徴とする弾性面回線角度である。

以上の説明から明らかのように、本発明によれば、従来のものよりも優れた温度特性を有する弾性面回線角度が実現できるので、実用して効果が大い。

4.図面の簡単な説明

第1図は本発明の説明に用いる本発明の基本となる弾性面回線角度の一例を示す斜視図、第2図は従来のBTEカセット水晶基板による温度特性を示すグラフ、第3図は水晶の任意の方位角を表現する右手系のオイラー角の定義を示す説明図、第4図は本発明の弾性面回線角度で用いる水晶のカセットを示すための遅延係数カセットの軌跡を示すグラフ、第5図は本発明による弾性面回線角度の温度特性の理論値と実験値とを示すグラフ、第6図

-80-

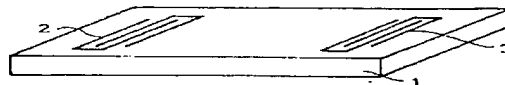
は本発明の弾性面回線角度の挿入損失の温度特性の一例を示すグラフである。

1…遅延係数、2、3…入力振動。

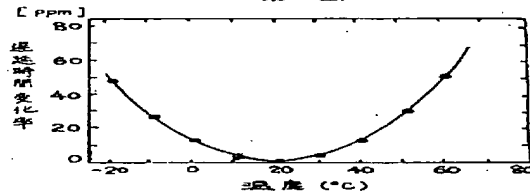
特許出願人 清水 康 敬
代理人 赤田士 村 井 隆

特開昭57-73513(3)

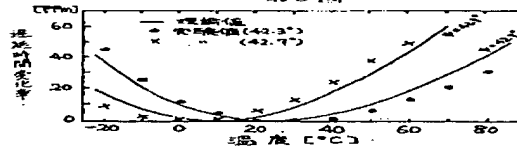
第1図



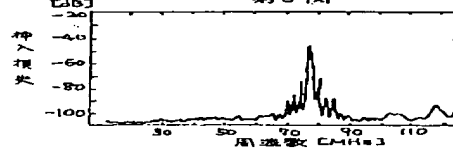
第2図



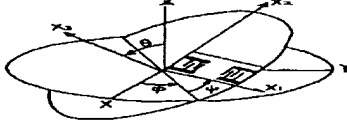
第5図



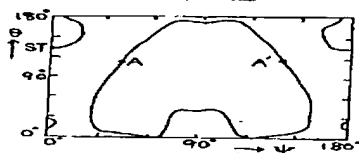
第6図



第3図



第4図



-81-